

■イメージ骨格の形成

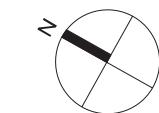
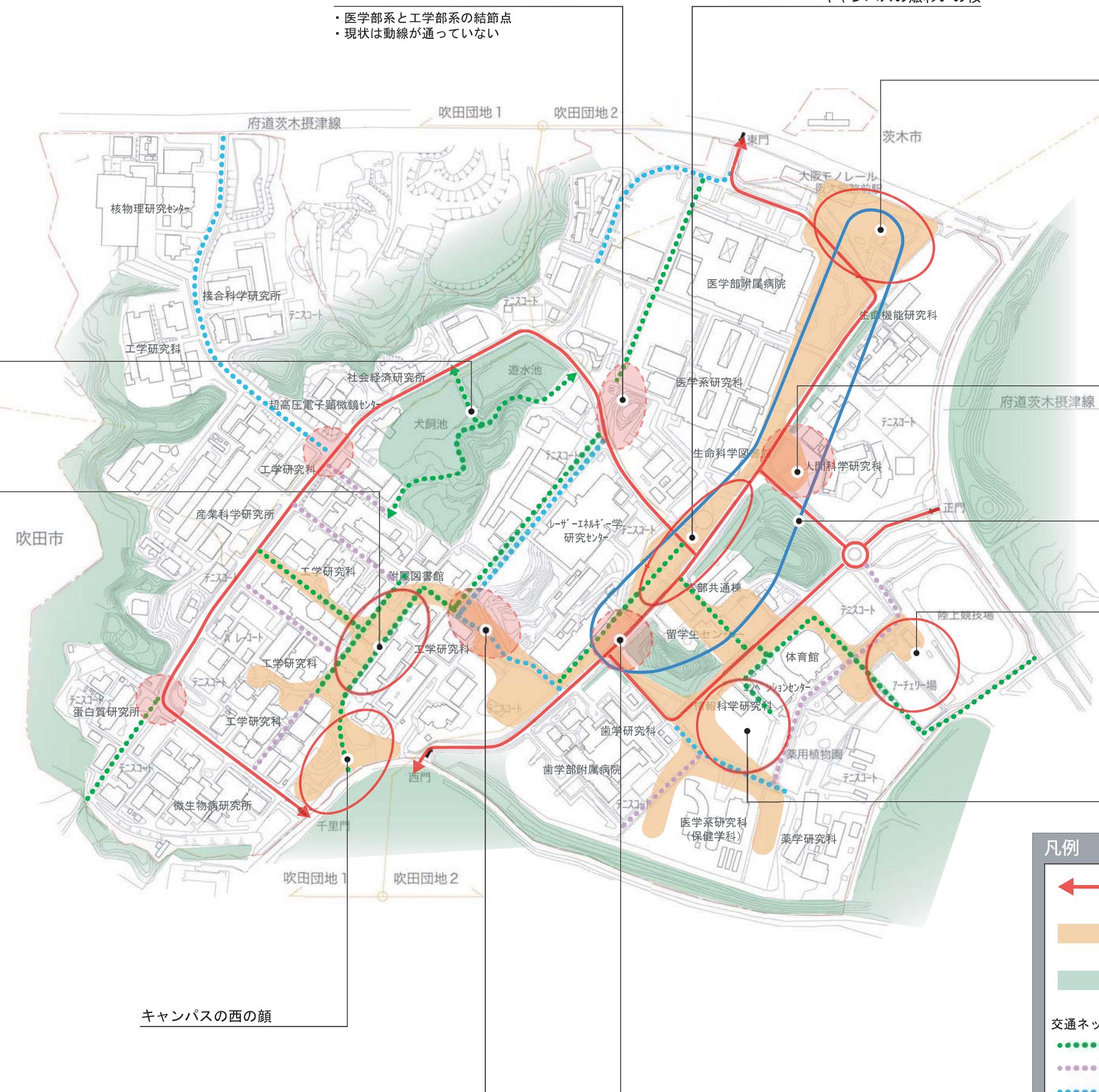
- 東西通り、北環状通り、南環状通りは、立地条件、沿道建物の公共性の高さ、空間の広がりなどの観点から、シンボルストリートとして強いイメージ骨格をなしうる街路である。
- さらに、千里門～工学部中央オープンスペース～吹田分館～中央通りと、コンベンションホール～事務局～中央通りのつながりは、それぞれ図となる建物や場所を結ぶ重要な歩行者軸であり、既存の広場や緑地をネットワークさせながら、イメージ骨格していく必要がある。
- シンボル要素としては、本部前～モノレールのゾーンが、キャンパスの脳わいや景観の核となる最も重要な場所であり、リーディングプロジェクトとしての整備が望まれる。
- この他、千里門周辺、工学部中央広場、事務局～コンベンションセンター、モノレール駅周辺、犬飼池～里山等を副次的なシンボルとして形成・育成する必要がある。

里山の散策路

工学部系の脳わいの核

- ・医学部系と工学部系の結節点
- ・現状は動線が通っていない

キャンパスの西の顔



1:6000 0 50 100 200 300 400 500m

キャンパスの脳わいの核

キャンパスの東の顔

シンボル・ゾーン

運動系・クラブ活動の脳わいの核

キャンパス南東部の脳わいの核

凡例

	イメージの骨格
	快適な歩行者空間または広場 (オープンスペース・ネットワークの形成)
	緑地
	交通ネットワークの形成
	歩行者系街路
	融合系街路(歩行者と自動車の共存)
	自動車幹線系
	重要な交通結節点

- ・メインストリートから歯学部系へのアプローチ
- ・幅広い緑地帯と里山の景観